

子ども会（学習会）だより

MY SKY No. 9



1997年6月17日火曜日発行(毎週火曜日子まぐれ発行)

発行者

板野中学校

学習会

編集・文責：吉成正士

先日^{せんじつらい}来、コンサートに行く機会^{たびたび}が度々あるのですが、ふとこんなことを思いました。

「コンサートって全体学習と似てる……」

ステージで懸命^{けんめい}に演奏^{えんそう}してる人々は、5時間目に公開授業してるクラス。

客席にいる人々は、周りで取り囲んでいるクラス。

そして、過ぎていく時間と共に盛り上がり^{もあ}をみせ、いつしか客席^{きやくせき}からも合唱^{がっしょう}の声が起こり、立ち上がる人々も……。

これも一つの、「共感^{きょうかん}と連帯^{れんたい}の輪」だと思うんです。ただしコンサートは、共通の目的のもと集まった集団ですから、こんなにうまくいくんですがね。でも全体学習も、「反差別」という共通の目的のもと集まった集団となりたいものです。

勉強会ればーと・REPORT・レポート！

先週金曜日^{きんようび}も7：30から「部落問題・同和教育」勉強会^{きょうす}を、郡頭集会所^{ぐんこうしゅうかいじょ}で開きました。参加者^{さんかしゃ}は、前回^{たいりょう}同様三人でした。話し合った内容は、町同研の授業案などについてです。

今回は、今週ではなく二週間あけて来週の金曜日(27日)となっていますので、興味^{きょうみ}ある先生・保護者の方々は、7：30に郡頭集会所へいらしてください。よろしく～！



☆ 仲間とは？友達とは？解放子ども会レポート(6月11日；総合センター)

毎月一回の解放子ども会。高校生や大学生などのお兄ちゃんやお姉ちゃんに囲まれて、毎回参加者が増えてるような気がします。あの和やかな雰囲気^{なご ふんいき}がいいのでしょうか……？それともおにぎりのパワー^ひに惹かれて集まってきたのでしょうか……？

さて今回は、高校生から、各校の部落問題学習の状況などを話してもらったわけですが、次第^{しだい}に「友達とは？仲間とは？」という内容に変わっていきました。それぞれによって「友達」「仲間」の意味が違うということが少しはわかりました。

実は前回私は、靴^{くつ}のいたずらに対して宣戦布告^{せんせんぷこく}をしたわけですが、そのことと、「友達・仲間」とはどんな関わり^{かんわり}があるのでしょうか？

私もいまだに靴^{くつ}のいたずらがあるのは辛いシヤです。“MY SKY”に書いていたよう

に、規則^{きそく}を守っていないような靴や高価^{こうか}な靴を履^はいてくるのはどうかなと思うけど、もしみんながちゃんとした靴を履いてきても、そのいたずらがなくなるかどうかはわからないと思います。靴のいたずらじゃなくて、他のいたずらをする人がいるかもしれません。

でも、やる方もやる方なりに何かあるんだと思います。何かイヤなことがあったりストレスがたまったりして、やっているんだと思います。

だけどやっぱり、いくらストレスがたまっても、誰かを悲しませたり傷つけたりするのは、どうかと思います。私もストレスはたまるけど、私のストレス発散^{はっさんぱん}法は、お兄ちゃんとのケンカです。反対にストレスがたまる気がするけど、発散されてるんです。だから、もしストレスとかでいたずらとかするんだったら、みんなが安心して学校に来られないので、される人の気持ちを考えてやめてほしいです。他のストレス発散法なんて考えてみればたくさんあると思います。

ある女子生徒より

あの後^{あと}寄せられた文章です。

みなさんは、これらいたずらをしてる人を、「友達」と見ますか？「仲間」と見ますか？それとも……。

☆ 1997年度板野中学校部落問題意見発表会(6月10日学級・16日校内)

今年の部落問題意見発表会はどうでしたか？少しは、他の子の本心^{ほんしん}が知れましたか？そして、あまり知らなかった子と少しはつながれましたか？これが意見発表の良いところであり、目的の一つでもあります。みなさん、どうでしたでしょうか？

さて、各学級ごとに違った手法^{しゅぽう}で代表が選ばれてきたようですが、15人のみなさん、緊張^{きんちよう}しましたか？いろんな意見が出ていましたね。

- ・自分の生活を見つめてありのままに語ってくれた人
- ・父母の結婚差別を堂々と話してくれた人
- ・祖父母^{そふぼ}の差別発言^{いふ}に怒りを覚^{おぼ}えたという人
- ・先生の出会った結婚差別を聞き、現実の部落差別^{じふ}を直に感じた人
- ・深刻^{しんこく}ないじめ問題について訴えた人
- ・自^{みづか}らの夢に向かって、できてない自分を何とかしようとしている人
- ・同和教育が板中を今のようにしてしまったと訴える人

他にもいろんな意見が出されましたが、最後の意見には、本当に「ウン、ウン」とうなず

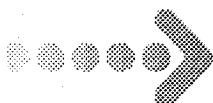
かされてしまいました。ホンモノでない同和教育が、いかに子どもを、学校を崩しているかということではないでしょうか。言い換えるならば、上っ面の、安易な、核心に迫っていない同和教育が、板中を今のようにしてしまったのかもしれません。ホンモノの同和教育を実践していけば、みんながイキイキできるはずですよ。そう思えば、私たち教師の研修の甘さばかりが浮かび上がってくるようで、恥ずかしい限りです。

また、いじめ問題についても、部落問題とどう関連しているのかを明快に示してくれればなと感じました。これも私たち教師の課題ですね。

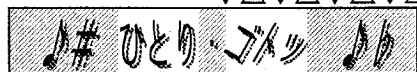
まあ、何はともあれ15人の代表のみなさん、ごくろうさまでした。今回をきっかけに、「勇気」という二文字を継続し、実践していきましょう！

さて、今回の意見発表から板中代表者を選出し、来週の月曜日には藍住東中学校で行われる板野郡部落問題意見発表会に出場してもらいます。カルタ取りについても同じですが、どうか板野中学校代表として、自らの思いを、胸張り堂々と訴えてきてください！他の人は、是非とも励ましの声をかけてくださいね！

お便りコーナー



今回は、詩「人の値うち」で有名な江口いとしさんのお手紙を読んでもらおうと思います。知らない人は、「わたしの願い」を開けてみてください。次のページになりますが、どうぞ！！



今週の金曜日には、いよいよ部落問題学習の研究授業があります。それぞれの中にある「峠」を、勇気をふりしぼり、絶対、絶対、越えていきましょうね！そしてその爽快感を、教室の中の多くの仲間とともに感じ合いましょう！



6月20日(金) 板野町同和教育研究大会「中学校部会」(5校時本校全学級公開授業)

23日(月) 板野郡部落問題意見発表会(藍住東中学校)

24日(火) 板野町同和教育研究大会「高校・養護学校部会」(板野高校一部公開授業)

26日(木)～30日(月) 1学期末テスト



太陽に映える草の美しさは人の心に響き
 多くをあたえてくれます。

お便やかに汚は躍の汚様子懐しく思ひます。
 昨日はまた花光の寺立派な落発資料を
 賜わりまして誠にありがとうございます。

未だほんの少しだけ読ませていただきますしたか
 し、いよいよ心に迫るものがはいっています。

私も新夜に差別の解決月を新すまして各地を
 廻つてまいります。いままああります度毎にゆつかりと
 拝読させていただきます。

先生と生徒さん方が共にひとりの心になつて
 てお祈り組々のお姿が目に見えています。

土居町でも先生さんの御協力にて子供会か
 四十五分続いてまいります。

五年程前利用から八月には山崎の解決子供会
 のおとんとくを流してまして、八ヶ月の道程を

歩き、戦争のない差別の悪い平和な世の中
 の来る事を祈る八月には、もう帰郷を志す碑に

祈りを捧げて帰つてまいります。

若い生徒さん方の成長が、きびしく思われます。
 時候不順の折で、いよいよ、いよいよ、汚自受下

さとして、汚は躍をお願ひ申し上げます。

あかとういいます。

いと

若成先生御礼に

和田武広講演会

『二度とない人生だから⑤』

特に私の一番上の姉の旦那さんは、

日頃から部落に対する差別発言をしよ
つちゅうしてゐるような人だったんです。
非常に差別的な人でした。それで、そ
れをあまり悪いと思つてないような所
がありました。ちつちやい時からそう
いう差別的な教育を受けてきたんでし
ようね。家族で。その義理の兄が、反
対側にまわつたわけです。

「自分がいつも差別してゐるのに、これ
で結婚を了解すれば、自分たちも差
別されるようになるかもしれない」
と思つたら、恐くなつたんでしようね。
そして、

「このことが周りに知れたら、もうわ
しも出世できんし、近所からも白い
目で見られるし、もし自分の親にこ
んなことがわかつたら、むしろ夫婦
は離婚させられるかもわからん」
ということを出したわけなんです。そ
して姉もそのことで心配になつて、急
に目の前のことを悪い方、悪い方に考
え出したわけです。

みなさん方も経験があるかもわかり
ませんし、今後そういう経験があるか
もわかりませんが、人間というものは、
一度悪いように考え出しますと、坂道
を雪だるまが転がつてだんだん大きく

なるようになってしまふんですね。悪
いように悪いように考えますと、それ
が化け物みたいに大きくなつていきま
す。

姉たちは、部落差別という現実の方
だけ、世間の差別意識だけを見てしま
つて「これは結婚を承諾したら大ごと
や」と、自分たちの家族まで破壊され
るような錯覚を持つたわけです。それ
で、猛反対を始めたのです。

それに対して母は、最初は抵抗して
くれたようですが、最後には力尽きて
しまつたようです。

父は姉たちの猛反対を聞いて、
「父ちゃんとは最初から、姉ちゃんたち
さえうんと言えはいいと言つてた。

しかし、姉ちゃんたちがそんなに猛
反対するんであれば、もうわしは認
めん。どうしてもお前が結婚すると
言うなら、もう黙つてこの家を出て
いつてくれ。もう二度とこの家に戻
つてくれるな」
ということ、父の態度も変わつてい
つたわけです。

それから連日連夜、猛反対の日々が
続きました。一度反対に変わった姉、
兄、あるいは母や父たちに、まともな
議論が通じないような事態が続いてい
つたわけです。それが、一ヶ月ぐら
い続きました。

そして、みんなが集まつて家族会議

をしました。

「私はどうしても結婚するんだ。部落
差別みたいなことで自分は負けたく
ないんだ。そんなことする人間にな
りたくない。それに、彼女が好きだ
から一緒にいるんだ」
と言いますと、

「そんなこと言うんだつたらこの家出
て行け。出ていつて二度とこの家に
戻つてくれるな！」
と父が唸りますと、母は気が狂つたよ
うに、

「武広が出て行くんだつたら、私も武
広殺して死ぬんじや！」
と、本当に冗談でも何でもありません
が、包丁まで取りに行こうかというぐ
らい、まともな話し合いじゃないよう
な状況がありました。そこで私は、

「もうそれなら俺は出ていく！」
ということ、一旦家を出ていきまし
た。しかし出ていつたすぐ後に、下の
方の姉の旦那さんが追いかけてきまし
て、

「お前の気持ちはようわかる。わしが
とにかくパイプ役になつて何とか二
人の橋渡しをしたい」
ということ、仲介役をかつて出てく
れたのです。それからはその義理の兄
が、何度か私の家や、転勤先のアパ
ルトと実家を往復したり電話してくれ
たのですが、私自身、修羅場のよ

うなやりとりの親子関係だったもので、

「もう、ああいう現実から逃げたい。
できればお兄さんが何とかしてくれ
るんだつたら、それにすがりたい」
という、逃げの気持ちになつてしまつ
てました。でも、「何とかしてほしい」
という逃げの気持ちでは、事態が良
くなるはずもないですね。やはり日に
日に状況は悪くなつていきました。

そしてとうとう上のお兄さんの実家
が、その事を知りました。そのお兄さ
んの実家というのは、本人が差別発言
をしよつちゅうしてたような家です
から、ものすごい、化石みたいな考えの
持ち主なんです。部落に対して非常
に誤つた考えをもつてゐるご両親で
した。

そして、
「部落の人間と結婚するんだつたら、
その嫁を帰らせて、離婚させろ」
ということを出したんです。そし
てとうとう、姉には二人の子どもがい
たんですが、その二人の子どもをどの
ように引き取るかというところまで話
が進んでしまつたんです。そういう状
況まで追い込まれたのですが、私には
何もすることができませんでした。

そして彼女が、
「もう私もこれ以上耐えられない……」
と言つた言葉に、私は
「ごめん。もうこれが限界だ……」
と告げたのでした。

つつく